



# 青武台だより



## No.199

平成25年12月12日発行

### 目 次

ページ

1.はじめに	2
2.活躍する仲間	
第48回全国高等専門学校体育大会に参加して	3
第48回全国高等専門学校体育大会成績	5
第20回全国高等専門学校将棋大会成績	6
第37回全国高等学校総合文化祭囲碁部門成績	6
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013 東海・北陸地区大会	6
第24回全国高専プログラミングコンテストに参加して	7
第20回全国高等専門学校将棋大会に参加して	8
第45回福井県吹奏楽コンクールに参加して	8
第37回全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)に参加して	9
第10回全国デザインコンペティションに参加して	9
第7回東海・北陸地区英語スピーチコンテストに参加して	10
平成25年度日独リーダー交流に参加して	10
第49回高専祭	11
弁論大会	12
クリーン大作戦	12
高専祭 被災体験について	13
学生会より	14
平成25年度「海外インターンシッププログラム」に参加して	14
平成25年度テーマセク・ポリテクニック技術英語研修	15
インターンシップ体験記(専攻科) PSU	16
専攻科海外研修	17
保育ボランティア	17
体育祭・高専祭写真集	18
平成25年度教育後援会奨励研究一覧	20
平成24年度教育後援会奨励研究概要報告	20
3.学生の将来と進路	
進路決定について	24
平成25年度進路内定状況	24
大学編入学試験体験記	25
就職試験体験記	25
インターンシップ体験記(本科)	26
インターンシップ体験記(専攻科)	27
専攻科生による校外発表会	27
4.中学生の皆さんへ	
キャンパスツアーアクセス2013及び	
キャンパスリサーチ2013の開催について	28
中学校だより	29
5.学園通信	
救急救命講習会・実技講習会	29
女子中学生の理工系分野への進路選択支援	30
平成25年度「防災訓練」の実施	30
平成25年度学寮防災訓練について	31
機械工学科実験機器及び実習工場工作機械の更新について	31

福井工業高等専門学校

FUKUI NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

<http://www.fukui-nct.ac.jp>

## はじめに

# 45年前の文章、マイナスからプラスへ

学生主事 藤田克志

月曜日の朝。前日まであった高専祭の後始末に向かっている時。いつも通る山沿いの道から田圃が広がる道路へ抜けた途端、澄んだ青空がわたしの目の前に広がり、自然に、今年も無事高専祭が終わったんだなあ、という気持ちになりました。少し晴れやかな感じで。前日までの学生たちの奮闘ぶりに、達成感を感じるというよりはとりあえず安心した、という感じで。前の2年とは違う感慨があったということでしょうか。

そうしてわたしは、初代校長の内藤敏夫先生が、「福井高専通信第8号」に寄せた「学生とその保護者にのぞむ」という文章のことを思い出しました。この少し前の昭和43年9月に「禁酒、禁煙等について」という「校長告示1号」が出ており、これを受けて、内藤先生の文章が書かれたのだとわたしは推測しています。

その文章の一節、例えば、こんな感じです。  
「立派な技術者としての第一歩を社会に踏み出す場合に先ず立派な人間であらねばならない。その前提に立ってこそ十分な社会活動が期待され、良識ある国際人としての生長が約束されるのである。」

別の場所では、こんなことも書いてあります。「自由と権利は主張するが、それに裏打ちされるべき責任と義務は一向果たさないでは、社会生活に対する適格性を根本的に欠いていることになる。自由と気ままとをはきちがえたり目的のためには手段を考えられないやり方は態度としてすでに落第である。考え方未熟な点があつたり、やり方に拙劣な点があつたりということは、この年頃にはあり勝ちのことであるが、それらは年と共に生長していくものであるし、また指導によっても是正してゆけることである。要は指導を受けて慎重に考慮し反省するだけの素直さが大切である。」

ことば遣いは少し硬いですが、真実であることをいっているし、学生が失敗することを許してもいて、温かみがあると思いませんか。わたしが担任をしたときはいつも最初のホームルームでこの文章の全文

を学生と一緒に読むことにしています。昭和43年に書かれたものですが、現在でも十分にこの考え方を通用するし、これが福井高専の学生指導の基本的な考え方であると思っていて、クラスの年度のスタートに最適なのです。何より学生が将来社会の一員としても通用するように、迷いながらも少しずつ人間的に成長することを促しているところが良いですよね。卒業する学生にはこのような人になって欲しい、とわたしも願っています。

さて、今年の3月に学生会の諸君が起こした出来事は、わたしにも学生主事団にもある課題を突き付けました。これを機に、わたし自身も高専の教師として基本に戻ろう、ひとつひとつことをきちんとやっていこう、と思い直しました。4月にわたしたち学生主事団は、前学生会の学生たちと一緒に各クラスに謝罪に回り、改めて現5年生諸君の誠実さを知ることになりました。3年生中心の学生会で、上級生や教職員の皆様の協力で体育祭を何とか開催することができました。学生主事団は学生会の学生と1ヶ月に1回の打ち合わせをして顔を合わせる回数を意識的に増やすようにしました。そしてクリーン大作戦、弁論大会、高専祭も学生諸君、教職員の皆様の協力を得て無事終了することができました。ありがとうございました。学生会の学生たちもそれを支えてくれた前学生会の学生たちも成長することが出来たのだと思っています。わたしたちはマイナスをプラスに変えることが出来たのだとわたしは考えています。そうした学生たちに巡り合えた幸いにわたしは感謝しています。

ただ、内藤先生の文章は次のようにも締めくくられています。「優秀な成績と健康に加えて、良識のある視野の広い、そして積極的な明るい人間を社会はのぞんでいる。それは一足飛びに出来上がるものではない。毎日毎日の謙虚な努力のつみ重ねによるこをわれわれは忘れてはならない。」

## 活躍する仲間

# 第48回 全国高等専門学校体育大会に参加して

## 第48回全国高等専門学校体育大会に参加して

サッカーチーム 5M 早水俊貴

僕がこの学校に入学した初めての夏、その年の全国大会は2位だった。試合には出ていなかったが、このときにすごくやる気が湧いたのを覚えている。それからは練習に励む毎日で、3年生で初めて全国大会の試合を経験した。

4年生が僕の全盛期だったかもしれない。この時から僕はスタメンだったので燃えていた。1日で2試合という辛い状況だったが何とか優勝することが出来た。しかし全国大会初戦で前年優勝校と当たり惨敗だった。

そして最後の夏がやってきた。これまでの4年間でたくさんの先輩の笑顔や涙を見て、それを糧に頑張ってきた。北信越大会の決勝戦まで難なく進み、6年連続の全国大会出場を決めた。しかし決勝戦は苦戦し延長戦までいった結果、石川高専に惜敗した。

それから1ヶ月後に最後の大会がやってきた。体調は万全だった。1回戦の相手は僕が1年生のときの優勝校だった。しかし5年間やってきた中で今年のチームが1番強いと思ったし、今まで1番楽しくプレー出来ていたので本当に負ける気がしなかった。いざ、試合が始まても、こちらのペースで得点のチャンスも何度もあった。しかし前半20分ぐらいに、相手と激しく接触し膝を痛めてしまい途中交代となってしまった。その後の試合は後輩たちが頑張ってくれたが、結果は惨敗だった。本当に悔しかった。後悔してもしきれなかった。今まで頑張ってきた5年間が20分で終わってしまい、練習してきたことも発揮できず引退だった。

しかしここまで来れたのも後輩たちや顧問の先生方の力があったからなので、すごく感謝している。また今まで付き合ってくれた両親にも感謝したい。



## 高専大会を終えて

卓球部 2B 藤田瑞姫

私は今回2回目の全国大会出場だった。去年は初めてだったということもあり、とても緊張して体があまり動かなかったけれど、今回はまだリラックスして試合に挑むことができたと思う。

ダブルスは、各リーグ戦での勝者が決勝トーナメントに進めるという形で試合が進行されていく。まず私たちは自分を含め4人リーグでリーグ戦を行った。私たちのいるOブロックは、高知高専、茨城高専、広島商船高専がいた。広島商船高専には、インターハイへ出場する広島2位の選手がいた。ドライブがとても速かったのにきれていてブロックするのが大変だった。ブロックができても甘かったら次に返ってくるコースが鋭かったりするのでミスが続いた。他の高専の選手もサーブがとても上手だったり、レシーブがうまかったりと見習うべきところがたくさんあった。

今回の大会はたくさんの課題を見つけることができたと思う。北陸大会後から全国大会前までの課題も克服できていないところが数多くあると思うので、今後の部活の練習では特に気をつけて練習に取り組みたい。全国大会を終えて新たに見つけた課題もあるのでたくさん練習して克服していくと思う。来年も高専大会があるので、今年負けた相手に次こそは勝てるようになりたい。



## 活躍する仲間

### 仲間の大切さ

卓球部 F4 鈴木 優

私は全国高専大会に初めて出場しました。初めての大会だったので不安と緊張でいっぱいでした。また、5年生まで出場する大会なので、相手に立向かっていけるのかとても心配でした。

しかし、この全国高専大会に出場して仲間の大切さを学びました。一緒に練習をした仲間やつらい練習と一緒に乗り越えた仲間、周りの人達の支えがあったからこそ優勝できたのだと思います。

大会前の練習はとてもつらかったです。でも、頑張ってこれたのも仲間がいたからだと思います。練習試合の計画をたくさんしてくださった先生方にも感謝しないといけないと思いました。

これから、またつらい練習や大会がたくさんあると思います。しかし、この大会で学んだ仲間の大切さを糧に頑張っていきたいと思います。

また、来年の高専大会のときに、自分の力が発揮できたらいいなあと思います。つらい練習がたくさんあると思いますが、仲間との絆で頑張っていきたいです。

### 全国大会

陸上部 4C 久島 慎

陸上の北陸地区の高専大会は7月6日に行われました。この大会では各種目で優勝した人が全国大会に出ることができます。僕は5000mで優勝し福島県で行われた全国大会に出場しました。

今年の全国大会は8月18、19日に福島県いわき市で行われました。全国大会に出場するのは今年で3回目で去年、一昨年ではあまりいい成績を残せていなかったので、今年は入賞するためにも例年よりもハードなトレーニングをして参加しました。

スタートの合図が鳴ってスタートし、初めは調子が良くいいペースで走ることが出来ましたが、その日は暑く、また風が強く徐々にペースも落ち今

年もいい結果を残すことが出来ませんでした。とても悔しかったですが、もっとたくさん努力して来年こそは表彰台に乗れるように頑張ろうと思うことができ、本当にいい経験をすることができました。

とても多くの人が応援したり、練習のサポートをしてくれたりしたのでその人達に恩返しするためにも、そして来年は自分にとっても最後の年なので後悔しないためにも、もっとたくさん練習してこれからも頑張りたいです。

### 鶴岡での経験

剣道部 F1 緩詰 正成

8月の猛暑の中、我ら剣道部は山形県へ出発した。私は北陸地区の大会個人戦2位という結果を残し悔しさを感じていた。絶対に勝つという闘志を燃やしていた。

全国大会男子個人戦において、1年生は私だけであった。1年生は自分だけという緊張と同時に楽しさも出てきた。下克上をしてやろうと思ったのだ。1回戦の相手は仙台名取高専の4年生であった。緊張と楽しさという矛盾した気持ちを持ちながら開始線に立った時、中学時代に経験したあのなんともいえない全国の雰囲気を実感した。私の心の中で「よし、勝った!」とセルフトークをし、試合が始まった。延長戦に入りながらも1本勝ちという結果を収めた。実に快感であった。

2回戦はおしくも1本負けだったが、次につながる「負け」であった。後々分かったことだが、北陸地区剣道競技での全国大会出場者で全国大会で勝ったのは私だけだったと聞かされた。それを聞いて、来年も必ず全国で戦いたいと思った。そのため、日々の稽古を充実させる。今、剣道をできているということ、応援してくださっている方々に感謝をし、責任を負いながら、来年は個人も団体も私がみんなを全国につれていく。



## 活躍する仲間

### 次こそは

水泳部 F5 八田朱里

私は今回、初めて全国規模の大会に出場することができました。でも福井高専からは1人でとても寂しかったです。会場には全国から予選を勝ち抜いてきた強そうな選手ばかりが居て、少し不安になりましたが、いつもの地区大会などと雰囲気が同じだったので、そんなに緊張していないつもりでした。調子もそんなに悪くなかったので、いつものレースをすれば決勝に残れると思っていました。しかし、結果は惨敗でした。焦ってしまい、唯一の折り返し

ターンで失敗してしまいました。頭の中が一瞬真っ白になったけれど、すぐに体勢を整えて皆に追いつけるように必死で泳ぎましたが、急げば急ぐほど泳ぎが悪くなってしまいました。その日はずっと後悔していました。「ターンさえ失敗しなければ決勝にも残れたのに。」悔んでも悔みきれませんでした。過ぎてしまったことはどうにもできないと分かってはいるけれど、今まで一番悔しい思いをしました。

今は、来年の全国大会で3位入賞することを目指しています。来年はリレーにも出て大勢で全国大会に出場したいです。

## 第48回 全国高等専門学校体育大会成績

### ◎陸上競技

(平成25年8月18日)

上荒井公園内 いわき陸上競技場

#### 【男子5000m】

久島 慎(4C) (記録) 17分24秒01 (18位)

### ◎サッカー

(平成25年8月17日~20日)

松島フットボールセンター

1回戦 福井高専 0-4 近畿大学高専(1回戦敗退)

### ◎剣道

(平成25年8月17日~18日)

鶴岡市小真木原総合体育館

#### 【男子個人の部】

1回戦 緩詰 正成(F1) 1-0 立谷 優羽  
(仙台(名取)高専)

2回戦 緩詰 正成(F1) 0-1 小出 健太  
(2回戦敗退) (和歌山高専)

#### 【女子団体の部・オープン】 (予選リーグ敗退)

#### 【女子個人の部】

1回戦 早瀬 夏貴(F4) 0-1 内田みのり  
(1回戦敗退) (佐世保高専)

### ◎水泳

(平成25年9月1日)

秋田県立総合プール(屋内・長水路)

#### 【女子100m自由形】

八田 朱里(F5) (記録) 1分07秒82 (予選落ち)

### ◎卓球

(平成25年8月16日~17日)

岩手県一関市総合体育館

#### 【女子ダブルスの部】

##### 〈予選リーグ〉

福井高専(藤田2B・鈴木F4)	3-1	高知高専
福井高専( " )	3-0	茨城高専
福井高専( " )	3-0	広島商船

##### 〈決勝リーグ〉

福井高専(藤田2B・鈴木F4)	1-3	米子高専
(準優勝)		

#### 【女子シングルスの部】

##### 〈予選リーグ〉

福井高専(鈴木 優(F4))	3-0	長野高専
福井高専( " )	3-0	広島商船
福井高専( " )	3-0	香川(高松)高専

##### 〈決勝リーグ〉

福井高専(鈴木 優(F4))	3-0	福島高専
(優勝)		

## 活躍する仲間

### 第20回 全国高等専門学校将棋大会成績

【団体の部】 (平成25年8月21日~23日)  
米子コンベンションセンター  
〈予選トーナメント〉  
1回戦 福井高専 3-0 阿南高専  
2回戦 福井高専 2-1 松江高専  
3回戦 福井高専 1-2 函館高専  
(3回戦敗退)

### 第37回 全国高等学校総合文化祭囲碁部門成績

【個人の部】 (平成25年8月3日~4日)  
時津町コスモス会館  
〈予選リーグ〉  
三村 優太(2B) (予選リーグ敗退)

## アリーナ対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013 東海・北陸地区大会

### 人とロボットの差

Aチーム 4M 金子祐樹

今回のロボコンのテーマは「Shall We Jump?」というテーマで、生き物を模したロボットと高専生が協力して大縄跳びをする競技でした。昨年に続き、コントローラーがなく操縦者はロボットに触れてはいけませんでした。そして一番の難題がロボットがジャンプし縄跳びすることでした。

人がジャンプすることは容易なことです。大縄跳びも小学校などでやったことがあると思います。しかし、その大縄跳び、ジャンプという動作をロボットが行うのです。過去にもジャンプという動作が競技に含まれていることがありましたが、回数は3回程度です。今回は14回のジャンプで耐久性など様々なことを考えなければなりませんでした。機構は完成したもののが耐久性に劣りました。改良を重ねましたが耐久性に劣ったまま本番に臨みました。本番は1回戦敗退。ロボットはスタートゾーンから出ることができませんでした。

今回のロボコンを通して、人の動作をロボットが行うということは難しいと感じました。しかし、ロボットが動いたときはとてもうれしく、今日まで一生懸命ロボットを作ってきて良かったと思いました。来年は、全国大会に出られるよう、日々努力していきたいと思います。



### 今回のロボコンを振り返って

Bチーム 3M 吉川哲也

今回、私はロボコンBチームのリーダーをやらせてもらい様々な事を経験する事ができた。Bチームと言っても、種々の事情により、Aチームと一緒にロボットの製作を行っていたので、実際はサブリーダーのような感じであったが、この立場になって部活の良い部分や悪い部分を客観的に見る事ができたと思う。

特に目立った事だと、良かった点としては、脚部のリンク機構を去年から研究などを行い、今年スムーズに取り入れる事が出来ていたという事だと思う。今年は、前でも述べたが、AとBが一緒に製作を行っていたので実質一つの部活で計4台作る事になっていたが、本体の製作が間に合ったのはこの事

## 活躍する仲間

が大きかったと思う。

逆に悪かった点としては、計画性が無かった事だ。夏休み中には材料を余分に買っておらず、不足して発注し何もできなかったり、買い出しに行ったメンバーが帰って来るのと入れ替わりで買い出しに行くといった事があった。

この他にも数々の反省点や良かった点を見つける事が出来た。来年度はよりよい物を作るために、今年度の反省点を一つ一つしっかりと直していく、よい部活動になるように努力したい。



## 第24回 全国高専プログラミングコンテストに参加レス

### プログラミングコンテストを終えて

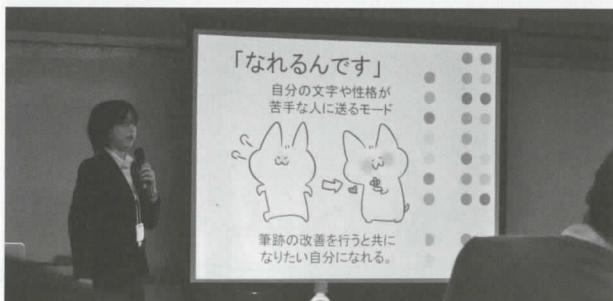
4EI 横山 さくら

10月13日から2日間、北海道の旭川市でプログラミングコンテストがありました。私は自由部門で「Mojava」という筆跡診断を用いたアバター制作アプリで出場しました。

今回、予選通過が決まってから約4ヶ月間メンバーの皆と共にアプリを完成させるため一生懸命頑張ってきました。なので会場に来てくれた企業の方や一般の方々に楽しんでもらえてうれしかったです。

残念ながら敢闘賞という結果になってしまったけれど、色々な方に楽しんでもらえ満足感を得ることが出来、とても充実した2日間を送ることができました。

今年のEIの3年生も来年、プロコンに挑戦してみてはいかがでしょうか。辛い事もありますがそれ以上の満足感を得られます。



### プロコン2013

4EI 濱田 槟亮

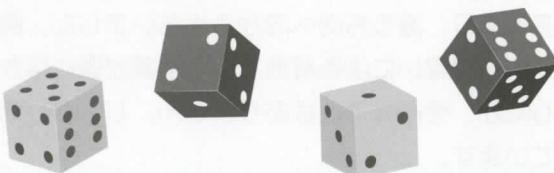
10月13日から14日に、北海道旭川市の旭川市民会館にて開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト競技部門に参加しました。

プロコンのためにチームを結成し、4月から準備を始めました。夏休みも殆どプロコンのために費やしました。まだ19年と短い人生においては、これほどの期間を何かに費やすのは初めてでした。

しかし、結果は振るわず自滅するような形で、敗退しました。予測できたであろうことを予測出来ず、対策が行き届いてないことが敗因でした。技術者としての経験不足が露呈し、自分の能力の低さを思い知り、非常に悔しい思いをしました。

私個人としては、このままで終わることはできません。この悔しさを晴らすためにも来年もプロコンに参加します。

来年のこの時期の青武台だよりに、良い結果を載せられるよう頑張ります。



## 活躍する仲間



### 第20回 全国高等専門学校 将棋大会に参加して 王 金

#### 優勝決定戦 in 鳥取

鳥取にて開かれた全国高専将棋大会の団体戦、第3回戦函館高専との戦い。相手は竜で王手。残り時間4分、状況はかなり追いつめられていた。私は、相手の王を竜が側面から、角が前面から圧力をかけており攻める準備はできていた。そのため、今の猛攻を止めれば勝てるという確信があった。相手の竜に対し、王が逃げて入玉すれば詰まればしない。問題は逃げ切れるかである。または、持ち駒で守れば相手の攻めは止まる。問題はこちらの攻める駒が少なくなることである。逃がすか、守るか。残り時間が3分となった。攻める駒も時間も惜しい。私は王を逃がした。入玉を狙う。相手は追って竜で王手。さらに逃げる。相手は持ち駒の金で王手。これで逃げれば入玉できる！逃げれば！逃げ…？

「あっ！？」

つい声が出てしまった。あまりにも単純に詰まれ

囲碁・将棋部 5C 竹 内 渉

ていた。結果として福井一函館の戦いは、1-2で敗北。その後、団体戦優勝は函館高専となった。悔しいが、あのとき王を守っていても勝てなかっただろう。王を逃がした手に後悔はない。来年から私はいないが私より強い後輩が3人もいるのだから心配ない。楽しく部活をしてほしい。



### ♪♪ 第45回 福井県吹奏楽コンクールに参加して ♪♪

#### 第45回福井県吹奏楽コンクールに参加して

第45回福井県吹奏楽コンクールに参加し、結果は銀賞でした。今、練習を振り返ってみると、部活がまとまっていく方向へ向かっていたなと思います。

部活で1つの音楽を演奏するということは、部員皆の気持ちの方向が定まらなければいけないのでしょう。この方向が時間はかかりましたが、揃つたように感じました。これが早くから定まるより良いものが出来ると思います。皆と共有できれば、話は早いのですが、言い方、解釈の相違などですれ違いは多々あり、違う方向へ向かう人もいました。音楽の方向性の違いによる解散という言葉が頭に浮かびましたが、そんなことはありません。しっかり活動しています。

話がそれましたが、音楽でもクラスでもチームな

吹奏楽部 3E 福 嶋 宏 之

らば、まとまらなければならないと僕は思っています。個々が勝手な行動をとったときは助け合う。それがチームだと思っています。

来年のコンクールは部員皆で団結し、金賞を獲ります。必ず。



## 活躍する仲間

### 第37回 全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)に参加して

#### 長崎大会を通して

8月3日から4日の2日間かけて開催された第37回全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)に出場しました。これは、全国の高校生が集い、日々の努力の成果を出すとともに、囲碁を通じて交流を図る場でもありました。

個人戦代表として参加させていただきましたが団体戦代表は藤島高校の3人組でした。会場でお互いの健闘を祈りました。その3人組とは旧知の仲なので、一戦ごとに声を掛け合いました。

対局は6局行われました。1局がおよそ90分から100分かけて知恵を絞ります。しかも、僅差で勝負が決まるので負けたときはとても悔しかったです。自分は3勝3敗でした。力を出しきれないとこ

囲碁・将棋部 2B 三 村 優 太

ろもありましたが、終わってほっとしました。この結果を幼少の頃からの先生にも報告しました。先生は全国大会の厳しさを知っているので、自分の事を褒めてくださいました。非常にありがとうございました。

来年も県予選で優勝して、次は勝ち越したいです。



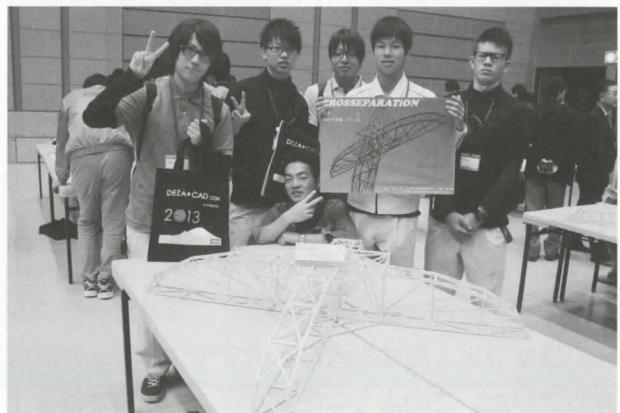
### 第10回 全国デザインコンペティションに参加して

#### 全国高専デザインコンペティション参加報告

去る11月9~10日に第10回全国高等専門学校デザインコンペティション、ならびに第6回3次元デジタル設計造形コンテストが鳥取県米子市で開催されました。メインテーマは「かえる」。私は4点支持構造物の耐荷力を競う構造デザイン部門に出場しました。デザコンに出場するのは3年振りで、前回よりも良い成績を残したいという思い、また卒業研究の一環でもあるので、結果を残さなければならぬというプレッシャーの中、5月から準備を進めてきました。構造物をデザインすることは容易ではなく、何度も試行錯誤を繰り返し、次から次へと出てくる問題点を解決しなければなりません。またそれと同時に外観の美しさも兼ね備えていなくてはならず、自己のデザイン・設計力を磨く良い機会となりました。大会当日には他の高専の作品を見て、自分たちが考え付かなかったアイディアを見出し知識を増やすこともできました。結果は決して良いもので

5B 萩 輪 圭 祐

あつたとは言えませんが、自分たちの努力はしっかり作品に表れていたと思います。私がデザコンに参加するのは今回で最後ですが、来年以降デザコンの活動をする後輩たちが少しでも多くなってくれるよう願っています。またデザコンに参加するにあたってご協力くださいました方々には、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



## 活躍する仲間

### 第7回 東海・北陸地区英語スピーチコンテストに参加して

#### WCBF For Real

私は11月9日に行われた東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテストに参加しました。

私は夏休みに行われた世界少年野球大会にスタッフとして参加し、そこで野球用語の通訳や小学生の子供たちの世話をすることなど、数々の「本物」の世界を知り、その大変さを感じました。そのことについて7分間の英語にまとめ、発表しました。

私自身スピーチをするのが初めてで、ましてや英語ということでとても苦労しました。スピーチは自分の声だけで思い、考えを伝えなければならないので、話の中での抑揚が重要です。しかし、なかなか

#### 4E 横 町 伝

うまくできませんでした。また、英単語をしっかり発音するというのもかなり難しかったです。

そして本番、自分ではいい出来のスピーチができたはずだったのですが、他の参加者のスピーチを聞いてその上手さにびっくり。自分の未熟さを思い知りました。私はまた、「本物」の世界を知ってしまいました。

来年も、また機会があれば参加したいです。今度は少しでも「本物」に近づけるようにもっと完成度を高めて臨みたいです。

### 平成25年度 日独リーダー交流に参加して

#### 受 容

日独学生青年リーダー交流事業は、「若者の社会参画」をテーマとしており、学生がドイツで文化体験、意見交換、体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図る事業である。

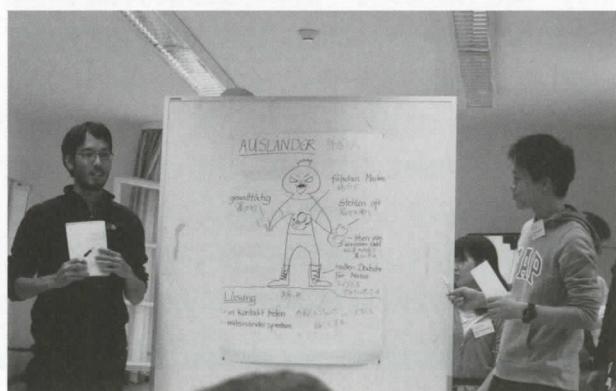
9月10日から9月23日にかけて、日本団の23人がドイツのベルリン、ドレスデンに滞在し、ベルリン児童連合、強制収容所、移民背景のある子供が通う小学校、BUNDjugend、NDC、児童青少年ハウス「マライケ」などの施設を訪問した。

最も印象に残っているのは、強制収容所のことである。ここでは、ナチスによる迫害の歴史を学んだ後に、「差別と偏見」というテーマで、ステレオタイプ・偏見・差別の違いを整理しながら、ディスカッションを行った。この場所で、障害者やジプシー、ユダヤ人、同性愛者などのマイノリティが収容されていた。このような歴史から、ドイツではマイ

#### 5B 佐々木 憲 史

ノリティに対する偏見への嫌悪感が強くなった。そして、人間の多様性を認めることの重要性が増し、マイノリティのための団体も数多くなったと言われている。

キーワードは、“多様性”だ。個人・団体にかかわらず、“多様性”を受け入れることは、必ずプラスになる。“多様性”的良さを見つけることは、人間自身に楽しさを見出しているのである。



## 活躍する仲間

## 第49回 高専祭

## 高専祭の目的

学生主事補 岡 本 拓 夫

49th高専祭が終わった。コンセプトは発揮できたのか？地域との結びつきは、どうだったのか？今回は、いろいろな制限の中で学生達は頑張ったと思う。

「防災チャレンジ、土のう積みコンテスト」では、鯖江市、消防組合、地域の防災リーダーの方々と、詳細な部分に至るまで連携を取ってくれた。ゲストとの交渉も、充分にこなしたと思っている。彼らの様子を見ていると、準備の時から、最初に挙げた項目が上手く行く信じていた。実際、その様になったと確信している。

天候が目まぐるしく変化するなか、対応もbestをつくせたと思っている。彼らのこの貴重な経験が、次回の高専祭や卒業してからの人生に、充分に活かせていくべきである。

最後に、本校の学生の情熱と地域の方のモチベーションの高さに感謝し、来年度でのさらなる進化を期待して、筆を置く。

## 高専祭を終えて

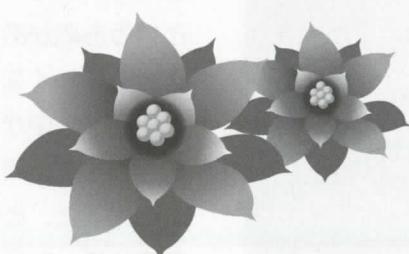
高専祭実行委員長 3M 角 鹿 拓 哉

僕は高専祭の実行委員長としての活動を通して、様々な事を経験することが出来た。辛い事や大変な事も多くあったが、無事に高専祭を終える事が出来て良かった。

僕が高専祭実行委員長に選ばれてからは、毎日の生活において、頭の中に常に高専祭という言葉があるようになった。実行委員のメンバーを選んだり、高専祭のテーマを決定したりなど、自ら決定することが多くなり、慣れない生活が始まった。様々な決断をしていくうちに、自分の判断が正しいのか？と思うような事もあり、不安になることも多かった。しかし、今では実行委員と相談する事で良い決断をすることが出来たと思っている。

一番大変だったのは、各部門との連携を取ることであった。上手く連携を取ることの大切さを改めて感じた。高専祭当日は、各部門毎に様々な準備や運営を行っていて、各部門との連携がとても大切であると感じた。

高専祭を終えて、僕は僕にしか出来ない経験が出来たと思う。失敗する事もあったが、様々な方々の協力もあり、実行委員長を務める事が出来て良かったと感じている。



## 活躍する仲間

### 弁論大会

#### 弁論大会を終えて

私にとってこれまでの弁論大会は、参加する側として弁士の人達の討論を聞いて楽しむものでした。しかし今年は開催する側として弁論大会を終えました。

文化長として、文化委員を集めて各クラスからテーマと弁士の募集を夏休み前から始めました。先生を探して審査員をお願いしに回ったり、弁士の講習会を開いたり、弁論大会開催までにはたくさんの事がありました。初めてのことばかりで不安でした。でも先輩や友達の助けもあり順調に準備を進めていました。

前日の会場準備も心配だったけど、文化委員や高専祭実行委員のみんなが手伝ってくれてすぐにシートや椅子が並べられました。みんなが協力してくれた事がとても嬉しかったです。後片付けもがんばってくれて、助かりました。ありがとうございました。弁論大会当日は、司会進行がとても緊張しました。でも、弁士の人達の活気ある素晴らしい討論のおか

文化長 3C 八田文菜

げで楽しむことができました。会場が盛り上がっていてとても良かったです。

大変だったけど、とても思い出に残る弁論大会になりました。中村先生、審査員を引き受けてくれた先生方、そしてクラスの代表として頑張ってくれた弁士の人達に感謝します。たくさんの人の協力のもとで今年の弁論大会も無事終えることができました。本当にありがとうございました。



### クリーン大作戦

#### クリーン大作戦を終えて



厚生長 3C 高山暁生

今年もクリーン大作戦を行いました。参加者の方の感想に“地域の方と挨拶をする場面もあり、気持ちよくごみ拾いをすることが出来ました”“おじいさんに「えらいね！」と言われて嬉しかったです”というものがありました。この感想を読んで、私はとても嬉しくなりました。

当日は途中から雨が降り出して、ごみ拾いをするには適さない環境でした。雨の中でごみ拾いをするのが大変だ、という不満の声も多く、正直、私自身も中止にしたほうが良かったのではないかと悩んで

## 活躍する仲間

いました。しかし、先程の感想を読んで、クリーン大作戦を行って本当に良かったなと思いました。参加者はクリーン大作戦を通して、街の美化活動と共に地域の方とのコミュニケーションもとれたのではないかと思います。また、“ごみ拾いをすることで気持ちが良くなった”という感想も多く見られ、

気持ちをリフレッシュすることができ気分転換になった人も多かったと思います。この様な素敵な活動をこれからも是非続けていってほしいです。

最後に、サポートをして下さった先生方や先輩方、雨の中、最後までごみ拾いをしてくれた参加者の皆さん、本当に有難う御座いました。

### 高専祭 被災体験について

#### 水防裏話

地域の方々と共同で行った、福井高専で初の防災訓練だろう。この貴重な体験の担当学生の声は、

- ・地域の方のチーム数がどんどん増えていき、まとめきれるか不安だった。
- ・来賓の方々が、当初の予想よりだんだん充実していき、驚きと恐怖感が出て来た。
- ・校長先生、鯖江市長、副消防署長や福井県防災士会理事長の方々が審査員になって下さり、驚きとともに大変感謝している。
- ・市役所の方々とこまめに連絡を取り、打合わせをするということが初めてで、とても貴重な体験になった。
- ・いざ本番が始まったら、不安感より安心感が勝った。
- ・とても良い雰囲気の訓練だったと思う。
- ・準備は大変だったが、終わってしまう寂しい。
- ・またこの様な機会があるなら、次こそは完璧なものにしてみせる。



学生+教員 3M 清水・角鹿、岡本

と言っています。自然災害のレベルが想定できなくなりつつある中、いかに自分の身を守るか、学校を守るか、地域を守るか、「自助・共助・公助」が理解されるとともに、次年度につながる事を期待します。



鯖江市長 牧野 百男  
受賞 下司町チーム



福井県防災士会 理事長 黒川 獻  
受賞 鯖江市防災リーダー交流会



福井工業高等専門学校 校長 松田 理  
受賞 5年 環境都市工学科



福井工業高等専門学校  
高専祭実行委員長 角鹿 拓哉  
受賞 下司町チーム



## 活躍する仲間

### 学 生 会 よ り

#### 学生会活動について

学生会長 3E1 前田倫也

こんにちは。学生会長の前田です。

学生会活動では9、10月は高専祭が中心となっていました。この2ヶ月間はマッハのように去っていきました。

今年はメインステージの場所が変わるなど、いつもとは違い戸惑う面もありましたが、「ア!!」をはじめとする、様々な人のご協力により無事成功することができました。ありがとうございました。

また、後期の学生会活動では新しいイベントを企画しています。内容はまだ秘密ですが、皆さんが楽しめるよう役員一同頑張っていますので、是非期待してください！

#### 基本に戻る

学生主事補 金田直人

ゼロからのスタートと言っていいでしょう。平成25年度の学生会は良い意味での転機から始まりました。学生会は、学生便覧にもあるように「学校の指導のもとに学生会の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し高等専門教育に資することを目的とする。」を基本として成り立っています。これまでの学生会は、上記の基本に倣い会員として権利と義務、そして責任を持たなければならない学生全員に対して、様々な催し（体育祭や高専祭など）を毎年実施してきました。ところが、近年とは言い難いですが、学生会の基本が崩壊しつつあります。このような状況になっているのは、学校側はもちろんのこと歴代の学生会役員ならびに学生全員に問題があったからだと思います。言い出したらきりがありませんが、何のための学生会なのか？もう一度考え方直すことが必要になってきています。では、どうすれば基本に戻れるのか？考えるのは私たち全員です。一人ひとりが学生会の会員として意識的に協力しなければ問題解決にはいたりません。

今年度はこのようなことを踏まえて様々な企画を検討しています。学生のみなさんの声をたくさん聞きたいと思っています。まずは目安箱に声を届けてみませんか？



#### 平成25年度「海外インターンシッププログラム」に参加して

1PS 渡辺真広

ベトナムでの研修において、社会人としての素養やプロジェクトマネジメントを学び、実際に開発の流れに沿ったOJTを体験させてもらったが、どれも学校では学べないものばかりでとても充実した生活を送ることができた。毎日、実際に働いている技

術者の方々から実体験を交えた講義をしていただき、日々成長を実感できた。また、現時点での自分の技術力や語学力を認識できたため、今後どのように学習していくらよいかの指針になると考えている。

## 活躍する仲間

しかし、今回この“海外”インターンシップで得た一番の成果は、ベトナムでの日常生活の中にあると考えている。身近な人にベトナムに行ったことを話すと、まだ「大きな川に囲まれながらの自給自足の生活」や「戦争」をイメージしている人が多かった。そもそも、ベトナム戦争は40年近く前に終わって



おり、ベトナムにガンジス川は流れていらないのだが、私も事前に調べていた状況と実際の国状とのギャップに驚いた。こんなにも、都会で、町は活気にあふれていて、人も状況に応じてあたたかい、このことを知ることができただけでもこの研修に参加した意味があったと思う。



### 平成25年度 テマセク・ポリテクニック技術英語研修

2ES 上野 隼也

私は9月9日から20日の約2週間、シンガポールのテーマセク・ポリテクニックで行われた技術英語研修に参加した。研修の目的は、技術英語習得と異文化理解である。研修では、アブストラクト、ポスター、発表用スライドの作成方法を学んだ。技術英語に関する成果報告として、講義で習ったことを活かして、スライドを使ったプレゼンテーションとポスターセッションを行った。

異文化理解では、実際にチャイナタウンとリトルインディアを散策し、シンガポールの文化だけでなく中国やインドの文化に触れることができた。日本とは異なる文化や習慣があることを知り、国際社会で活動するためには、他の国の文化や習慣も理解することが大切であると実感した。研修の最後には異文化理解に関する成果報告として、スライドを使ったプレゼンテーションを行った。

今回の研修で学んだ知識や考えを活かして学生生

活、就職活動に役立てたいと考えている。また、今後も積極的に海外活動に参加し、自らの知識や考えを広げることに努める。

今回の研修では、テーマセク・ポリテクニックの学生たちだけでなく、テーマセク・ポリテクニックの先生や高専の先生、研修をともにした高専生など多くの方々のお世話になり、大変感謝している。



## 活躍する仲間

### インターンシップ体験記(専攻科) PSU

#### タイ旅行

1PS 野尻 紗也香

夏休みにタイに行ってきました。タイはとにかく食べ物が美味しい。特にフルーツは安い、美味しい、完熟の三拍子。ひと月で一生分くらいのフルーツを食べました。滞在したのが田舎の為か、自然も豊かだし人も暖かい、良い国でした。

書き遅れましたが、タイに行ったのはインターンシップの一環です。大学の研究室にお邪魔しました。勉強もしっかりしました。……本当です！

タイは世界最大の天然ゴム産出国で、その諸々の研究が盛んです。私は主にゴム加工について学習しました。技術と言うより、その国の文化・気候ならではの問題、国際社会故の違い、また天然ゴムに関する世界経済の動き等に興味を持って取り組めた、有意義な研修でした。

コミュニケーションは半分英語の半分タイ語。分からないので殆ど気合で会話。今はそんな友達が必死に書いてくれる英語と、大学で知り合った他国の留学生と連絡を取り合うのが楽しいです。

寄稿するに当たり、1人の学生でも、少しでも海外研修に興味を持つてくれれば……と思って書きました。海外研修は楽しいです。得られる物が多く、考え方も大きく変わる事と思います。

最後になりましたが、今回の研修にご尽力してくださった方々に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



#### Prince of Songkla University

1PS 山中 宏祥

8月11日の午前11時に私はタイ王国のハジャイという街に初めて足を踏み入れました。大学の職員の方と合流し宿泊先のアパートへと向かいます。1台のバイクに4人乗車、車の荷台に4頭の牛、訳の分からぬ装飾をしたバス…道中車内から見た景色は今でも鮮明に覚えています。

アパートに到着後、中国の留学生と合流し、市内観光をしました。移動中の車内は英語、中国語、タイ語、日本語が飛び交っています。滞在中の共通言語は英語での会話がほとんどです。しかし、日々会話を重ねるごとに、コミュニケーションの楽しさをどんどん実感していました。

学校での実習は非常に充実したものでした。時には社会福祉の一貫として地方の保育園に出向き、図書館の建設に携わりました。滞在中に出会ったすべての人たちが、私の毎日を作ってくれました。彼らからここには書ききれない程の多くの事を学びました。

研修を終えた今、私にはある一つの目標ができました。その目標は自分が本気になって取り組めるものです。私はその目標に向かって日々本気で努力しています。きっと来年の8月11日の自分は、目標のゴール付近に足を踏み入れているはずです。また、今回このような素晴らしい機会を頂けた事をこの場をお借りして、お世話になった先生方に深く感謝いたします。



## 活躍する仲間

### 専攻科海外研修

#### 海外活動～東南アジア～

私は夏休み期間中、東南アジアにて海外活動を行い、タイ、カンボジア、ベトナム、ラオスと4ヶ国をまわって参りました。アンコール遺跡やプリアヴィヒア等の世界遺産やその国の街並み、人、自然を眺めながら3週間かけて旅しました。宿の現地調達、バスの手配、陸路の国境越え等、ほとんどのことが初めてで自分の血となり肉となる素晴らしい体験でした。

また旅の中で英語漬けの環境に身をおきたり、欧米人ばかりのドミトリー（6～8人で同じ部屋で雑魚寝する格安宿泊施設）にも泊まりました。面白い体験として、ドミトリーで夜中に歯を磨こうと共同の洗面所に行ったら、フランス人の若い女性

2ES 井上 遥介

が下着姿で立っており、目があうと下着姿のまま笑顔で喋りかけてくる様に、このとき旅一番の文化の違いを感じました。

タイとカンボジアでは現地の大学を訪問し、研究内容や設備、授業風景を見学しました。大学内を案内してくれた学生と意気投合し、もっと深くコミュニケーションを計りたいと思えば思うほど、英語の壁がそれを阻み、自分の英語力の乏しさを痛感したのを覚えています。東南アジアの大学生は英語を喋れる人が多く、日本が国際社会で戦っていく上では英語は必要不可欠なツールであると身をもって実感しました。よって私は日本に帰国してから喋るための英語の勉強を本格的に始めました。

### 保育ボランティア

#### 爆発!保育園児パワー!!

9月9日、鯖江の保育園にボランティアに訪れました。実は、男の人は嫌われないか少し心配でした。14年前に自分が保育園に通っていた頃は、女の先生が大好きで、男の人が来ると無茶苦茶機嫌が悪かったのを覚えています。そんな下心丸出しの保育園児はいないだろうと信じて玄関をくぐりました。

実際に参加してみると、みんな純粋な子たちばかりで、とっても仲良くしてくれました。今回、そんな無垢で楽しい子どもたちと過ごす一日の中で、僕はたくさんの影響を子どもたちから受けました。

例えば運動会の練習や、オセロ、手品、折り紙をして遊んでいるうちに、子どもたちと同じように本

5EI 石田 雄登

当に些細なことで笑えるようになっていたのです。子どもたちの持つ癒しパワーは僕の想像をはるかに超えていました。純粋で無垢な保育園児の遊び心がいつの間にか自分にも移っていたのです。

帰りの会では、ギターを弾きながら、みんなでたくさんの童謡を歌いました。多くの人前でギターを弾きながら歌うことは初めてで、最初はとても緊張していました。しかし、楽しんでいっしょに歌ってくれる子どもたちのおかげで、僕もとっても楽しく歌えることができました。何事も、純粋に楽しむ心とその大切さを改めて実感した一日でした。

## 活躍する仲間

体育祭

# 活躍する



エール交換



デコレ



応援合戦

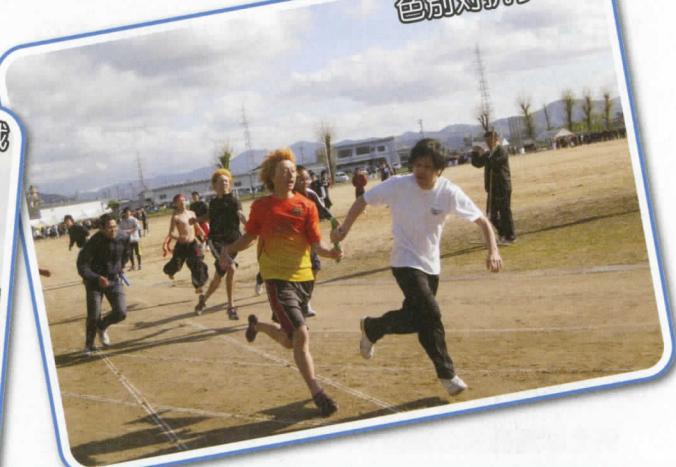


綱引き

色別対抗リレー



騎馬戦



## 活躍する仲間

# 仲間たち

高専祭



## 活躍する仲間

### 平成25年度 教育後援会奨励研究一覧

学年	申請者	研究題目	指導教員名	交付金額(円)
4M	金子 祐樹	ロボット「メルポスちゃん」の開発	千徳 英介	150,000
3M	吉川 哲也	ロボット「チャンピオンシープ」の開発	村田 知也	150,000
5B	田畠 昇	高専デザインコンペティション (3次元デジタル・環境・空間・創造)部門への挑戦	江本 晃美	100,000
5B	蓑輪 圭祐	ヒノキ材を用いた「4点支持構造物」の作製	阿部 孝弘	100,000
4EI	小林 貴人	第9回全日本学生室内飛行ロボットコンテストに 参加するための機体作成	高久 有一	100,000
4E	市橋 勇志	小水力発電機の製作と設置	丸山 晃生	120,000
2C	長谷川 基	福井県及びその周辺における地殻活動の研究	岡本 拓夫	50,000
3E	中山 翼	Ene-1GP(MOTEGI KV-40クラス)における EVエネルギー・マネジメントに関する研究	竹本 泰敏	130,000
				計 900,000

### 平成24年度 教育後援会奨励研究概要報告

#### Crab Pet 製作について

ロボコン研究会 3E 牧 田 幸 大

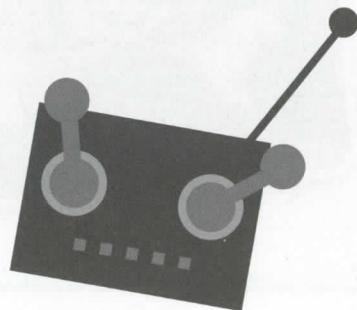
行く年来る年早いもので、昨年度のロボコンから1年が過ぎ、今年度のロボコンも地区大会が終わってしまいました。今年のロボコンの結果はさておき、昨年度のロボコンのテーマは「ベスト・ペット」。大震災で被災した人々を元気づけるという意図のためか、ロボットが人間のペットとして、人からボールを受け取り、指定された場所にボールを入れるという競技内容でした。

我々のチームでは、過去に製作した力二型ロボット「越前ガニダー」を元に車体を製作し、一昨年に製作したロボット「パラボラQ」のボール発射機構を改良したものを車体に搭載して、昨年度のロボット「Crab Pet」を完成させました。

大会当日、1回戦目は相手側チームのロボットが

動き出す前に、我々のチームはボールをゴールに入れることに成功し、2回戦進出。しかし、次の試合では、足回りの機構が故障。行動不能に陥ったため敗退しましたが、アイデア賞をいただきました。

昨年度のロボコンでは、自分は回路やプログラムの製作等で参加し、様々な経験を積むことができました。そしてロボコン製作に必要な資金等の支援や応援をしていただいた方々に心より感謝いたします。



## 活躍する仲間

### ロボコンに参加して

ロボット部 3M 橋 本 知 明

今回のロボコンのテーマはベスト・ペットでした。ルールとしては、生き物を模したロボットが伴走者に付き添って歩き、ボールを拾い、それを受け取ったロボットが、9個の穴が空いたゴールにボールを投げ込みシュートするというものです。今回の私たちのロボットは、親機と子機に分離する分離型ロボットです。子機は、伴走者に付き添って、ボールだけを拾い、親機は子機が集めたボールを子機ロボットから受け取り、それを親機ロボットの発射機構を用いて発射します。

詳しいロボットの機構としては、歩行は平行リンク（2足）を用いて行います。実際に歩くと、車体が片側に安定せずに傾いてしまい倒れそうになりました。また、発射機構としては引きバネを用いてその戻る反動によってボールを飛ばします。車体の微妙な揺れや、引きバネによる力の違いによって、ボールが的に入らないことが多々ありました。

センサ関連については、CDSセルを用いて、自然光の明るさの違いによって、モータへの入出力を行います。

今回のセンサ関係の問題は、会場の照明の明るさによって、入出力が混雑して、ロボットがプログラム上で停止してしまったことでした。

### ひらく

2ES 紅 田 麻 未

昨年11月、栃木県小山市にて全国デザインコンペティションが開催された。デザインのメインテーマは“デザインが起つ”であり、4つの部門の内の、ものづくり部門に挑戦した。この部門では、地域の特産物や地域の文化・技術・ノウハウなどを取り入れたモノ、かつ、優れたデザインのおもちゃを提案し、それを通して笑顔の連鎖が広がるようなおもちゃを制作するというものであった。

私達は、福井県の特産品である越前和紙を用いて、

ルールやデザインは自分達で考えた新たなカードゲーム「FUNO」を制作した。越前和紙のカードを介して福井を発信することで新しい人ととのつながりを作り出すことをコンセプトにした作品であった。しかし、残念ながら予選を通過することは出来なかった。

今回の作品を通して、本戦に出場することが出来なかつたが、ものづくりの新たな可能性を“ひらく”ことができたのではないかと感じた。これからもデザイン出場に向けて挑戦し、新しい発想によって様々なものをつくっていきたい。

### ヒノキ材を用いた「単純支持橋」の模型の製作

5B 田 邊 祐 真

昨年の11月に小山高専主催の全国デザインコンペティションの構造部門に出場しました。

昨年度の構造部門は「デザイン・コストに配慮した橋—単純支持橋の軽量化コンテスト」というテーマで、まず60kgまでの荷重に耐え、65kgという荷重に達したら壊れなければならなく、かつ、いかにデザイン性に優れなおかつ軽量化された橋を造ることができるかを競うコンテストでした。いかに65kgという荷重で壊れる梁を造るかという所はとても難しく、そのために僕達のチームは様々な形をした梁を製作し、少しずつ理想の形を追求していました。さらにそこに軽量化とデザイン性が絡んでくるため、梁の製作はとても苦労しました。構造部門には福井高専からは僕達4年生のチームと3年生のチームの2チームが出場しました。結果は2チームともとてもよい成績とは言えませんが、今回このコンテストに出場させて頂いたことで全国の高専から大きな刺激を受け、次に繋がる沢山のことを学ぶことができました。

## 活躍する仲間

### 早期プログラミング教育に向けた新しい入力インタフェースの考察

EI(平成24年度卒業生) 夢田一貴

小中学生を対象にプログラミングやコンピュータの仕組みを教育することが近年、着目されている。本研究では、iT-eBlocksと名付けた早期情報教育用の学習教材を作成し、考察を行った。作成した教材は、幼児や小学校低学年までを対象としたものであり、コンピュータは命令によって動作するという仕組みを学習することができる。子供達は、おもちゃのブロックを用いた入力インタフェースを介して、パソコン上で動作するソフトウェアに対して命令しながら学習を進めていける。iT-eBlocksは、arduinoマイコンを組み込んだハードウェアとFlash、ActionScriptで作り上げたソフトウェアからなっている。

高専祭で、iT-eBlocksを子供たちに使ってもらい、試用の評価や感想を得ることができ、考察を行った。この研究成果を第1回全国高専小中学校向け理科技術教材開発コンテストに応募し、敢闘賞をいただいた。また、平成24年度教育システム情報学会学生研究発表会において研究発表を行い、優秀賞を受賞することができた。

### 子どもとお年寄りの交流キッカケを提供するサービス開発

5EI 山腰貴大

私たちは昨年のプログラミングコンテストの課題「ICTでサポートする明るい少子高齢化社会」に向けた作品として「コネクト」というスマホ向けソフトウェアの開発に取り組んだ。その際に必要なスマホや参考図書などの購入に研究奨励金を用いた。

ソフトウェアは子どもが好きなお年寄りと、共働きなどで放課後に家に一人でいることが多い子ども、そしてその親をメインターゲットにしたものである。お年寄りは自分の家の情報を登録し、子どもはそれらの情報を元に家に遊びに行くことでお年寄りや他の子どもと交流することができ、それによっ

て地域の輪が広がると考えた。

アイデアが固まり、プロコンの課題部門に応募したが、残念ながら予選で落ちてしまった。その後ソフトウェアを完成させようと開発を進めてきたが、技量不足や時間不足で十分なものを作ることができなかつた。今回の開発を通して、チームでのソフトウェアの全体像の共有やメンバーに正確に自分の考えを伝えることの難しさを身をもって感じた。

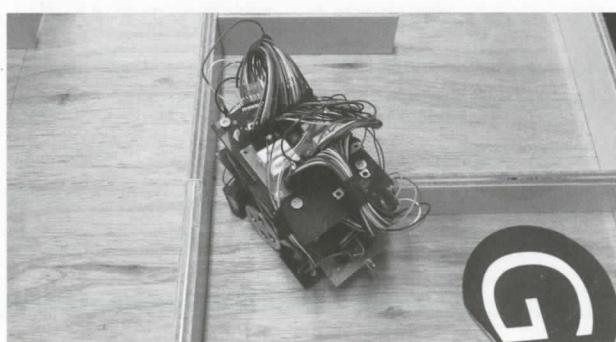
### 迷路探索ロボットの製作を通して

5E 山根克明

私たちが教育講演会の支援を受けて研究に取り組んだのは「迷路探索ロボット」の製作です。迷路探索ロボットはマイクロマウスと呼ばれ、センサで壁を感じマイコンでデータ処理をさせることで迷路を自動で探索し、ゴールに着くとスタート地点まで戻ってくるロボットのことです。

活動は4年生の時だったので定期試験や就職、進学の準備が重なり、メンバー全員が多忙で作業にかける時間を多く割く事ができませんでした。その中でもメンバー同士で作業がどこまで進んでいるかをグループで確認すると共に、グループ内でディスカッションを行い効率よく作業を進めることにより、期限内に迷路探索ロボットを完成させる事ができました。

今回の研究を通して自分の学科の知識だけでなく、様々な分野の知識を深めることができ、授業では身につきにくいグループ間でのコミュニケーションや研究を進めるために必要な社会的スキルを身につける事ができました。



## 活躍する仲間

### Webサービス開発に触れて

4EI 中村勇介・野村信吾

ものづくりをする時には様々な技術や知識が必要となります。そして、自分が習得していない技術も必要となる場合がほとんどでしょう。そんな中、自分が所属している集団で必要な技術者が全員揃うことは決して多くありません。この問題を解消し、ものづくりの活性化を図るためにインターネットを活用して技術者の募集のみならず開発も支援するサービスを作りたいと考えました。

チャットや掲示板・検索機能をFLASHを用いて作成し、個々のユーザーを管理できるようにユーザー登録を作成する段階でセキュリティ面を考慮していないことに気づき、計画が遅れ実装予定の機能のいくつかは実装できませんでした。

今回は実際に運用する際の見通しが甘かったため、このような結果を招いたと考えています。開発中にどのような不測の事態が起こるか分からぬため、開発を先延ばしにせず早め早めに開発していくことが大切だと実感しました。

### 福井県及びその周辺における地殻活動の研究

4C 松村 岳

私たち地球物理学研究会はこの奨励研究で、地震活動や地盤特性について観測と研究を行い、特に福井県での地震活動と地球電磁気現象との関連性について統計的に調べてきた。本年度も昨年度に引き続いだり、研究の一環として地震発生時の減災を目的とする地震の情報を流す防災ラジオの作製にも取り組んだ。

観測の方では、観測装置のメンテナンスとデータのダウンロードを池田町の今立郡池田町観測室(TIJ)で行った。また、京都大学北陸観測所観測坑のデータを物理教室で定期的に解析した。

モチベーションと、本奨励研究についての見識を深める目的で、京都府にある京都大学の宇治キャンパスに行き、片尾准教授から地震に対する興味深い

講話を聞くことができ勉強になった。また、この宇治キャンパスでは観測に用いる装置なども見学してきた。

今回の宇治キャンパスの見学で学んだことや感じたことをこれからの奨励研究に活かすことができるよう、意識を新たにしてより一層の努力をもって今後の研究に取り組もうと思っている。

### ソーラーカー4号機の高機能化

5E 竹内 陸

小学生が運転できるソーラーカー2号機の太陽電池パネルが老朽化したため、新規にソーラーカーを作ることにした。一昨年、4号機が完成したが、照明用ライト、方向指示器など電装品を装備していなかったので、本奨励研究で取り付けることにした。合わせてアクセルとブレーキシステムも変更することにした。照明用としてLEDライトを取り付けた。色は白色で、電源は充電式ニッケル水素電池である。本体とは別系統になっている。方向指示器にもLEDライトを用い、制御はArduinoで行った。この電源も充電式ニッケル水素電池である。バッテリーの残量表示は電圧計を使って行った。従来、アクセルはダイヤル式で、ハンドルの近くに置いていたが、今回、フット式にした。また、スピードは安全性を考えて時速20km以上でないようにした。4号機は当初、太陽電池でバッテリーを充電しながら走行する機能を有していたが、今回初めて太陽電池だけで走る機能を付け加えた。太陽電池は最大出力点を追尾しながら走る。何しろモーター出力800Wに対して太陽電池出力が400Wで、需給バランスが崩れており、太陽電池だけで走ったときの喜びは大きかった。



## 学生の将来と進路

### 進路決定について

#### ニューキャリアプログラムの実践

今年の6月に、1、2年と4年生に対し進路調査を実施した。その結果、未定者が1~2割いるものの、就職希望者50~60%に対し、進学希望者は25~30%と少なく、以前はほぼ同数だったのが、約半分に落ち込んでいた。就職希望者の増加傾向は予想されていたが、その傾向が1年から明確になっており、あまり割合が変わらないことは意外であった。就職希望者の増加は、経済的な事情が主と考えられるが、技術の高度化・複合化に対応できる技術者になるには、さらに幅広い知識を身につける必要があり、特に開発職を希望する場合は、進学することが望ましい。

さてこの傾向の背景には、高専の就職状況が、大学と比べて不況下でも安定して好調なことが関係している。しかし以前は、高専生は簡単な面接のみで採用になったが、最近は優秀な人材であれば採用という企業が増え、厳しさが増している。また、成績優秀でも面接で自己PRや自分の考えを主張できない学生は不採用になる事例もあり、コミュニケーション能力の重要性と共に、自己PRの材料を低学年の頃から意識して蓄積しておくことの必要性が指摘されている。さらに、就職活動時期の早期化に対応できず、就労意識が低いまま就活に突入する学生が見受けられ、低学年からのキャリア教育の導入が課題になっていた。

進路指導委員会委員長 安丸 尚樹

本校では、伝統的なキャリア教育として、2年で校外研修、3年で工場見学旅行、4年でインターンシップを全員が体験し、段階を経て進路を決定する進路指導を学科毎に行ってきました。しかし、これまでの指導方法では、このような就職環境の変化に対応することができず、早い段階から職業意識の形成を行い、自らが主体的に企業研究をし、目標達成のための行動に移す能動的な姿勢を身につけることが必要になってきた。

そのために本校では3年前より、自らが考え行動するニューキャリアプログラムを企画し、実践に移してきた。特に本校専用求人サイトをWeb上に構築し、パソコンや携帯電話から就職情報を入手できるようにし、就活の利便性を向上した。また、新たに合同企業説明会や就職対策講座を開始した。進学については、大学・大学院合同説明会を開始した。低学年では、本校教員によるキャリアガイダンス、企業経営者の講演、5年や専攻科生が進路決定までの体験を語る先輩フォーラムを行い、職業意識の早期形成に努めている。さらに、ポートフォリオを導入し、キャリア形成に向けた目標設定や振り返りに活用させている。このプログラムは学生のニーズに基づく本校独自の先進的な試みであり、学生諸君は積極的に取り組み、自分に最適な進路を決めていただきたい。

#### 平成25年度進路内定状況

平成25年10月25日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数	進学希望者数	内定者数			未定者数	就職希望者数	内定者数		未定者数	その他
				大学(院)	専攻科	専門学校			県内	県外		
本 科	機械工学科	35	15	6	8	0	1	20	5	15	0	0
	電気電子工学科	41 (3)	14	7	2	1	4	26 (3)	11 (2)	15 (1)	0	1
	電子情報工学科	31 (4)	14(1)	13(1)	1	0	0	15 (3)	4	11 (3)	0	2
	物質工学科	35(12)	19(6)	12(3)	6(3)	0	1	16 (6)	9 (2)	6 (3)	1 (1)	0
	環境都市工学科	37 (9)	12(2)	4(2)	8	0	0	23 (7)	10 (2)	11 (3)	2 (2)	2
	小計	179(28)	74(9)	42(6)	25(3)	1	6	100(19)	39 (6)	58(10)	3 (3)	5
専 攻 科	生産システム工学専攻	14	2	2		0	0	12	4	8	0	0
	環境システム工学専攻	11 (5)	2	1		0	1	7 (4)	4 (3)	3 (1)	0	2 (1)
	小計	25 (5)	4	3		0	1	19 (4)	8 (3)	11 (1)	0	2 (1)
合計		204(33)	78(9)	45(6)	25(3)	1	7	119(23)	47 (9)	69(11)	3 (3)	7 (1)

表中の( )は女子数で内数

## 学生の将来と進路

### 大学編入学試験体験記

#### 大学編入試験奮闘記

5EI 石 田 雄 登

私が大学編入試験の勉強を始めたのは、4年の11月ごろからである。日々迫る受験日に緊張しながらも、足りない勉強時間を補うために過去問を解くことで受験に備えた。

1校目、名古屋工業大学の数学の試験で、二重積分に関する問題が出題された。過去3年の二重積分についての問題は、どの年も置換積分で解ける問題であった。しかし、今年はそれでは解けなかった。後から冷静に見れば図を書くことでとても簡単に解ける問題であったのにも関わらず、置換積分で解くという固定概念に捕らわれて手も足も出なかった。物理も同様の現象に陥った。試験が終わった直後は悔しくてその場で泣きそうだった。その日の夜、色々な人の励ましで何とか立ち直り、次の日の専門教科では十分に力を発揮できた。そして英語と専門教科のおかげか、無事合格することができた。

これから編入を考えている多くの人が、受験勉強は早く始めた方がいいという話をあちこちで耳にしているだろう。そこで、今回は違った切り口から受験生の皆さんにアドバイスをさせて頂く。まず、受験生のみなさんは過去問にはほとんど手を付けないで欲しい。本当にやることがなくなったらやってみる程度の考えでいいと思う。

また、受験勉強仲間をたくさん作ってほしい。編入試験は、決して個人プレーではないのだ。仲間同士で受験に対する気持ちを高めあって勉強し、どうか合格を掴んで頂きたい。

### 就職試験体験記

#### 就職活動を振り返って

5E 田 保 貴 大

私が就職活動を通して、最も重要なことは「高専生活で自分が何をしてきたのかを知る」ということです。

私のクラスでは3年生の頃からポートフォリオを書いていました。これは自分たちが行った活動をファイルに保存し、自分でその活動を1~10段階で評価するというもので、学校生活で何を頑張ってきたのかがひと目で分かります。ポートフォリオを書き始めた頃は担任の先生にやらされている、という感じでしたが、今思い返せば3年生から今まで自分が何について一生懸命頑張ってきたか、逆に今ひとつだった部分はどこかを明確に知ることができ、履歴書や自己PRを書く際にとても役に立ったと思います。

自己PRや志望動機を考えるとき、よくある「こう聞かれる」「こう答える」という本やインターネットを参考にするのも一つの手だと思いますが、それでは自分の主体性・オリジナリティのない平凡な文章になってしまいます。また、面接官の前で志望動機やそれに伴うエピソードを喋るのは自分自身なので、自分の実体験をもとにエピソードを作った方が相手側にも自分の気持ちが伝わるのではないかでしょうか。

こういった具体的なエピソードを見つけるために自分がやってきたことを記録し、客観的に自分を評価することで、もっと努力しなければならない点や、他人より頑張った点が自ずと見つかると思います。

まだ高専生活で一生懸命取り組んだことがないという方や、自分が何を頑張ったか分からないという方は、今からでも「高専生活でこれは頑張った」と言えるようなことを是非見つけて下さい。

## 学生の将来と進路

### イシターシシップ体験記(本科)

#### インターンシップを終えて

4B 村 上 凌

私は、9月9日から20日までの2週間、茨城県つくば市の安藤ハザマ土木技術研究所においてインターンシップの研修を受けました。この研究所は、新規で構造物を施工する際に発生した問題点について、調査・実験を通して解決策を考えるところでした。私は地盤グループにお世話になりましたが、高専で習った基礎的な実験も行われており、データ整理を含めてすぐに理解することができました。しかし、日本ではまだ規定の無い三軸透水試験について、試験装置を自作しデータ収集に取り組まれていることを知ったときには、この研究所のすごさを実感しました。私の研修内容は主に土質実験でしたが、他にも擁壁のコンクリート打設現場に立ち会ったり、首都高の現場を見学させてもらったりと研究所の仕事以外にも色々と体験させてもらうことができました。また、巨大な反力壁と疲労試験装置、実物大の家も揺らすことができる三軸振動台、プールのような大型平面水槽と造波装置、風の流れを計測する風洞実験装置等を目の当たりにし、研究・開発の仕事に大きな魅力を感じました。

生活面では会社が準備してくれたアパートで一人暮らしをしましたが、とても有意義に過ごすことができました。一日の研修が終わると研究所の方々と食事に行ったり、趣味のダンスを行うために筑波大学にお邪魔したりと、研修以外にも充実した時間を過ごすことができました。この場をお借りして、お忙しい中、色々とお世話になりました研究所の方々に御礼申し上げます。非常に短い期間でしたが、とても勉強になりました。この経験を自分の進路選択に活かしたいと思います。

#### 新たな一歩

4C 長谷川 沙 紀

私は、4月からインターンシップが終わった8月中旬までで、新たな一歩をふみだしました。

4月の初め頃にインターンシップの希望を出し、第1志望だった会社がインターンシップを行っていないということで、第2志望の旭化成にインターンシップの申し込みをすることになりました。申し込み書を書く中で自己アピールの欄を書くのにとまどいました。伝えたいことはあるのにそのことをいかに上手く文で書けるか、何度も考え、先生にアドバイスももらって書いたことを覚えています。しかも結果発表が8月の初めということもあり、落ちたら後がない状況でした。そのため、その時まで安心もできなかったので受け入れが決まった時はほっとしました。

実際にインターンシップに行って、5日間、県外のホテルで生活ということもあり、緊張しっぱなしでした。それは担当者の方に心配される位でした。しかし違う高専の方と知り合い、受け入れ部署の方々に支えていただいて、行っていることは難しいこともありましたが日々勉強で充実したインターンシップを過ごすことができました。

今回のことでの社会人になるということに不安を感じていたのが、初めは初心者であり、それから学んでいくことや自分から勉強を行うことの大切さを知ることができ、自分の中で一歩踏みだせた気がします。



## 学生の将来と進路

## インターンシップ体験記(専攻科)

## インターンシップでの体験

1ES 竹内聰宏

今回のインターンシップでは武生森林組合という会社に行かせていただいた。武生森林組合は、越前市内の森林や樹木の管理等の業務を行っている。自分は、将来就職するにあたり、林業などの森林に関する仕事に就きたいと考えているため、武生森林組合に行かせていただいた。しかし、環境都市工学科では森林等の林業に関する授業はほぼないため、実際どんな仕事を体験させていただくのかといった事がとても不安であった。どういったことが不安なことであるかというと、例えば、枝打ち等の作業で高いところまで木を登らなければならぬのではないか、朝から晩まで山の中にいるのではないか、またそういった場合のトイレ等どうするのだろうか、といった不安である。

そういった不安がありつつも、実際は自分の希望していた森林の管理業務に携わりつつも、測量や調査、設計などが主な業務であった。不安であった高所での作業は、伐採する木の打ち合わせなどを行って専門の木材店に委託する形であり、高所での作業は行わないそうだ。また、一日中、山の中にいるのではないか、その場合のトイレはどうするかといった問題も、実際には、ずっと山中の現場にいるではなく、書類整理や現場の移動で事務所に戻ること、コンビニに行くことが出来た。そういった不安点を一掃できたインターンシップだったと自分では考えている。

## 専攻科生による校外発表会

## 北陸技術交流テクノフェア

2PS 永井雅浩

10月16日から18日に、福井産業会館で北陸技術交流テクノフェアが開催された。例年の2日間と違い、今年は3日間と1日開催期間が長くなつたことにより講演数が増え、活気ある3日間になつていたと感じた。

私はそのテクノフェアの2日目に技術シーズの発表の場を設けていただいた。会場内には企業の方はもちろん、一般の方も多数いたため、自分の研究をさまざまな人にもわかりやすく説明することが非常に難しかった。また、ふとした質問も多くあつたため、自分の研究に対する理解度を把握でき、いい経験を積むことができた。

会場内を見回って感じたことは、中学生や高校生、子ども連れの家族など非常に若い人も多くいたことだ。それに質問も積極的に交わしていて、ものづくりに興味を持つ人や、福井や北陸を盛り上げたいと思う若い人が増えたと感じた。今後もテクノフェアのような福井の産業を復興させる取り組みを続けることによって福井が活気づく日も近いのではないかと思った。



## 中学生の皆さんへ

### ：キャンパスツアー2013及びキャンパスリサーチ2013の開催について：

本校夏のオープンキャンパス「キャンパスツアー2013」及び秋のオープンキャンパス「キャンパスリサーチ2013」が、それぞれ8月3日（土）と10月12日（土）に行われました。

福井高専では、オープンキャンパスを春・夏・秋と年3回実施しています。春のオープンキャンパスで学校の施設や部活動を見学して学校に興味を持ち、夏には各学科で具体的にどんなことを学ぶのかを知り、秋に志望学科のデモ授業を実際に体験して、徐々に本校への進学意思を固めてもらおうという訳です。

オープンキャンパス第2弾となる「キャンパスツアー2013」は、セミの鳴き声がキャンパスに響く中、中学校の生徒、保護者、教員併せて680名の参加を頂きました。参加者は、本校の1年生に案内さ

教務主事 上島晃智

れ、約3時間かけて校内を回り、各学科のデモ実験を見学しました。在校生のホンネを聞く「交流コーナー」や、保護者、教員対象の「進路相談コーナー」も併せて開催されました。

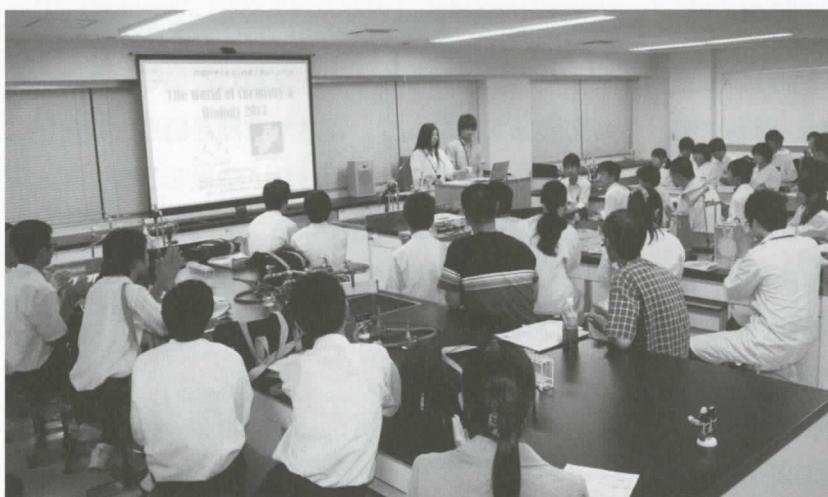
また、オープンキャンパス第3弾となる「キャンパスリサーチ2013」は、秋の気配漂う中、中学3年生222名の参加がありました。

参加した生徒たちは、希望した2学科の授業を各50分で体験しました。

また、入試相談コーナーも併せて開催され、保護者の方が熱心に質問をする姿が多く見られました。

このように、ほぼ1年を通してオープンキャンパスを開催し、多くの中学生や保護者の方々とお会いしてきました。来春、一人でも多くの方と、このキャンパスで再会できることを楽しみにしています。

キャンパスツアー2013  
物質工学科の様子



キャンパスリサーチ2013  
電気電子工学科の様子



## 中学生の皆さんへ・学園通信

## 中学校だより

## 引き継がれる学校文化

本校は田園風景の中の屋敷林に囲まれた中学校で、平成18年4月に開校し、今年で8年目を迎える新しい学校です。「魅力ある学校」を目指し「教科センター方式」と「スクエア制」を取り入れています。「教科センター方式」とは、全ての教科がそれぞれ専用の教室を持つことです。生徒は授業毎に各教科専門の教室へと移動して授業を受けます。また、各教室の周囲にはメディアセンターが一体となって整備されています。教科の先生も授業時間以外はメディアセンターに常駐しているので、生徒が休み時間等に気軽に先生と会話したり自主学習ができるなど、積極的な意識や態度を育てる環境が整っています。また「スクエア制」を取り入れることで、学年の壁を取り払うことを狙っています。スクエアによる活動は、3年生を核として、2年生・1年生が集会や清掃および給食などの生活をともにすることによって、上級生から下級生に学校文化の継承がなされていきます。また、行事の際に下級生は、指導する上級生の姿を見ることで、自分たちがその立場に立ったとき自覚が生まれ、積極的な行動につな

坂井市立 丸岡南中学校

がるものと考えています。生徒玄関には昨年度卒業生から後輩へのメッセージが掲示されています。卒業式の卒業生答辞の時にステージにこの書を掲げ、後輩へ気持ちを託しました。そこにはこう書いてあります。「支えてくれる全ての人々に感謝して先輩方の築いた伝統という道を歩み 自分の道をつきすすめ」

丸岡南中学校の学校文化は、先輩から後輩へと確実に引き継がれていると感じています。



生徒玄関に掲げられている卒業生メッセージ

## 救急救命講習会・実技講習会

## 部活等学生の救急救命講習会及び教職員対象の普通救急救命講習会開催 学生主事 藤田克志

8月1日（木）本校心和館において、丹生・鯖江消防組合消防吏員の指導のもと部活等学生の救急救命講習会が開催されました。

この講習会は毎年行われており、部活等学生の救急救命講習会には学生29名教職員8名が受講し、講習会では心肺蘇生法、AEDの使用法について説明を受けながら、人形を使って実際に体験しました。また、止血法や熱中症に対する応急処置についても説明を受け、学校で発生する可能性のある救急時の対応について学びました。

また、9月11日（水）には本校職員会館において丹生・鯖江消防組合消防吏員の指導のもと教職員

に対する安全衛生教育の一環として、普通救急救命講習会が開催されました。これは、実際の現場に遭遇した際、救急車が到着するまでの間に適切な救急処置が施せることを目的としたもので、教職員11名が受講しました。

講習会では、応急手当の重要性や心肺蘇生法、AEDの使用法、遺物除法、止血等について説明を受け、人形を使って実際に体験しました。さらに、熱中症や過呼吸等に対する応急処置についても説明を受け、学校において発生する恐れのある救急時の対応について学びました。また、講習会終了後、受講者には普通救命講習修了証が交付されました。

## 学園通信

### 女子中学生の理工系分野への進路選択支援

企画室員 佐 藤 国

去る9月21日（土）、女子中学生の理工系分野への進路選択支援を目的に「女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会」を開催した。本企画は今年で5回目を迎え、当日は中学2・3年生66名、その保護者35名、計101名の参加があった。参加者が100名を超えたのは平成21年度に本企画が実施されるようになってから初めてのことであり、県内はもちろん県外の中学校にも本校の恒例行事として認識してきた感がある。

参加者には5学科とサイエンスクラブをあわせた6コースから3コースを事前に選択してもらい、日常生活に関係深い各学科等の代表的なものづくりやデモ実験を本校女子学生指導の下で体験してもらうことで、理工系分野への興味・関心を抱く機会を提供した。

体験学習後は、昨年度から導入した取り組みである、本校OGによる講演を行った。お二人のOG（京セラ株式会社 佐々木康子氏及び越前市役所 長田亜美氏）には、理工系の女性が社会へ参画していく素晴らしさと楽しさを実体験を基に語って頂いた。

講演後は前述のOGを交え、例年同様女子学生の進行による懇談会を実施した。懇談会は終始和やかな雰囲気で進み、参加者からの女性ならではの質問・疑問に対して、女子学生達は素直な姿勢で経験談を

交えながら回答していた。なお、希望者には女子寮見学もして頂いた。

本企画終了後に行ったアンケートによると、参加した女子中学生全員から本企画に「とても満足」「満足」との回答を得ることができた。自由記述欄では、本校に対する認識を深める他、本校卒業後のイメージを描き進路の選択肢として理工系分野も考える機会になったという主旨の回答が目立った。今回の参加者の中から、一人でも多くの女子中学生が実際に理工系分野を選択し、技術者・研究者として将来活躍することになれば幸いである。

本企画の開催にあたり、本校女子学生を始め教職員の皆様のご支援とご協力を頂きました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



### 平成25年度『防災訓練』の実施

総務課

本校では、10月3日（木）に鯖江・丹生消防署協力のもと全校学生・教職員が参加し、緊急地震速報の後、地震の発生と地震に伴う火災が発生したとの想定で防災訓練を実施した。

避難場所での点呼確認の後、校長より「危険を回避するにはどうすれば良いかを日頃から考えておく事が大切である」との訓辞があり、消防署からは、「常日頃から、地震や火災が発生した場合には、自分の命は自分で守るという気持ちをもち、迅速で落ち着いた行動を心がけるように」との講評があった。

避難訓練の後、1年生全員が煙で一杯になった教室の中を通ることで煙の怖さを体験し、さらに「消

火器訓練」「起震車による模擬体験」「はしご車による避難体験」を行い、防災に対する意識の高揚を図った。



訓辞をする松田校長



消火器訓練をする学生

## 学園通信

## 平成25年度 学寮防災訓練について

寮務主事 坪川武弘

2013年8月5日夜に鯖江消防署立会いの下で、寮における防災訓練が実地されました。南寮2階から出火したという想定で、寮生と寮務主事団が参加しました。夜に行う訓練ということで、非常灯以外の電気を消し暗い中での避難にするなど、より現実的な訓練であったなか、学生は急ぎながらもあわてず素々と避難するなど、積極的に訓練に取り組みました。当日はあいにくの雨模様と言うこともあり、食堂へと変更された避難場所に寮生が到着したあと、各区長が迅速に人数確認をしていたのが印象的でした。

避難訓練終了後の講評において、消防団員の方から真剣な訓練の必要性についてのお話をいただきました。特に煙に対応するためどんなものでもいいから鼻と口をふさぐようにすることと言う話を聞いていただきました。また、消火設備の説明とすることで、消防団員の方の立会いのもと一般的な消防道具である消火器の説明と消火栓の使い方説明、実際に消火栓を体験する訓練を行いました。消火器の説明では、消火器には対応できる火災の種類があって、どの火災に対応できるかの説明が書いてあることや、あまりにも大きい火災（背丈以上）に対しては逃げることを優先した方が良いということを教えて

いただきました。消火栓に関しては、実際に消火栓を引き出す方法から水の出しかた、どのようにして目標に水を当てるかということまで丁寧に説明していただき、寮生も実際に自分でホースを持って水を目標に向ける訓練を行いました。説明されると簡単そうでしたが、なかなか思うようにいかなかったようで、訓練の重要性に改めて気付かされる機会になったようです。

青武寮では年1度避難訓練を実施することによって、いざ災害や火災が起きた時に、迅速な行動が取れるように意識付けを行っています、皆さんももちろん訓練ではあるのですが、訓練だと甘えないで真剣に「自分ならどうするか」を考えながら取り組んでほしいと思います。



## 機械工学科実験機器及び実習工場工作機械の更新について

機械工学科 加藤 寛敬

今年更新された機械工学科の実験機器と実習工場工作機械について紹介します。

最近の機械の精密化に対応した測定装置として、超精密表面形状粗さ試験機、高精度CNC三次元測定機、歯車試験機、超微小押し込み硬さ試験機が導入されました。いずれも、ナノ・マイクロメートルオーダーで様々な表面性状や三次元形状の高精度測定が可能です。また、従来と比べ精密な位置決めと速度制御が可能な精密万能試験機や、超微細加工が可能なレーザ加工機も導入されました。

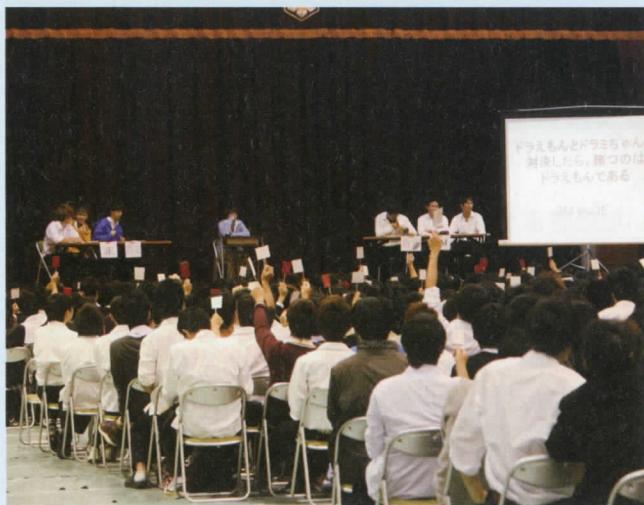
一方、実習工場では、汎用精密旋盤、立てフライス盤、ホブ盤、汎用精密コンターマシン、鍛造加熱炉、精密平面研削盤といった工作機械の更新に加えて、リニアモータを搭載し複雑形状の精密加工が可能なワイヤ放電加工機や、従来の工作物回転主軸に加え工具回転主軸も備え旋削と溝加工等の複合加工が可能

ログラミングにより可能なCNC旋盤（CNC：コンピュータ数値制御）が導入されました。また、実習工場の床面も整備され、明るく綺麗になりました。

これらの新しい設備により実験実習の充実が図れ、学生諸君には大切に使用して高度な先端技術や知識を身に付けて欲しいと願っています。



## クリーン大作戦・弁論大会・球技大会風景



弁論大会①



球技大会（バスケ）



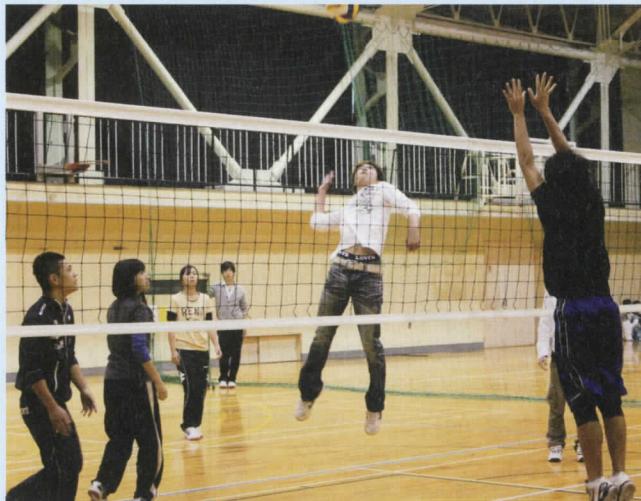
弁論大会②



球技大会（フットサル）



クリーン大作戦



球技大会（バレー）

題字 池田大祐前校長、マーク 本校ロゴマーク

平成25年12月12日発行 ☆福井工業高等専門学校 ☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111